

# 野菜の展望

今年は1月までは近年にない大雪、そして2月以降は前年同様の暖冬傾向となりました。桜の開花も記録的な早さとなりましたが、4月に入り特に朝晩の気温が上がらず、前進出荷傾向も止まって、施設・露地野菜ともに平年並みの入荷が予想されます。また、県内産の野菜の品目入荷量も徐々に増えて、季節を彩るさまざまな商材が加わり賑わいのある売場となってきます。

季節商材の筍は石川産の入荷です。今年は裏年にあたり、昨年を下回る入荷が予想されます。梅は順調な入荷となる予想であり、古城（和歌山産）主体に小梅（佐賀・福岡・和歌山産）の入荷で、平年よりやや少ない入荷量を見込みます。ラッキョウは前半、高知・徳島産中心に後半より石川産の入荷も加わりますが、前年並みの入荷と見られます。山菜類は石川産のワラビ・山ブキが上旬に出荷最盛期を迎え、カタハも下旬に向けて増量となります。

根菜類の大根は千葉主体に九州産、下旬からは石川産の春大根の入荷で、全体的には例年並の入荷が見込まれます。石川産については作付面積減少のため、今年も少なめの入荷量となりそうです。人参は徳島産に加えて中旬頃より岐阜産も入荷します。

葉茎菜類のキャベツは愛知産主体に石川・茨城・鹿児島産の入荷で、例年並みの入荷が予想されます。白菜は茨城産主体の入荷です。葱は埼玉産・群馬産（春葱）・茨城産（夏葱）主体に九州各地より入荷があります。小葱類は博多万能ねぎに愛知・静岡産の出回りです。ほうれん草は岐阜・石川・茨城・群馬・静岡産の入荷となり、例年並みの入荷量を見込んでいます。レタスは兵庫（淡路島）・茨城産主体に中旬より長野産も加わり増えます。ブロッコリーは前半に高知産主体に中旬から石川産の本格出荷となり、最盛期を迎えるのは来月となりそうです。アスパラは長野・山形・石川産の出荷が増加してくる見込みです。

果菜類の胡瓜は石川産主体に群馬・高知・愛知産の入荷で、下旬から福島・山形産の入荷が加わります。高知産については6月中旬までの入荷となる見込みです。加賀野菜の太胡瓜は中旬から入荷増となります。南瓜は中旬から鹿児島産の出荷が始まり、輸入品はメキシコ産主体の入荷となります。茄子は高知・愛知産の中茄子、熊本・福岡産の長茄子、大阪産の水茄子、高知の米茄子、下旬から群馬産の中・長茄子が加わり豊富な品揃えになって、おすすめです。トマトは愛知産主体に石川・熊本産の入荷があり、県内産は下旬より増量となります。豆類については石川産千石豆（つるまめ）の入荷が始まり、インゲン・砂糖豌豆・スナック豌豆・そら豆等の安定した入荷があります。

菌茸類の椎茸・なめこは石川産での順調な入荷を見込んでいます。しめじ、エノキは減産期となり、入荷が減少する見込みとなっています。

土物類の馬鈴薯は鹿児島・長崎産の入荷で、下旬には静岡産三方原男爵の入荷があります。玉葱は平年と違い、北海道産の入荷も下旬まであります。新玉葱は愛知県産主力の入荷となります。生姜は高知産の入荷で、新生姜は下旬から4kg規格へと切り替わる予定です。

《野菜第三部部長 杉本智則》

# 果実の展望

今月の果実は九州産地施設物中心に順調な生育となります。西瓜は熊本産の大玉西瓜が前半はL、後半からは2L サイズ中心の玉流れでの入荷となります。小玉西瓜については5玉を中心として群馬県からの入荷となります。

メロン類の主力産地である静岡・高知産は昨年をやや下回る入荷予想となっているものの、品質については良好と見られます。アンデス・クインシー・イエローキング等の多種の瓜類が茨城、熊本、愛知より出回り連休前から増量となる見込みです。莓は主力産地の愛知産が今月いっぱいの出荷が予想され、九州産は上旬にて終了となります。

いちじくは愛知産主力でハウス物の入荷で、入荷量は平年並みと予想されます。

枇杷は長崎産主力でL中心の出回りです。上旬まではハウス物、中旬からは露地物に切替わる。本年は前進傾向で数量的には平年並みであります。

りんごは青森産のふじ、ジョナゴールド、王林主体の入荷で、36玉中心の玉流れとなります。産地在庫は少なく、入荷量は減少となって高値で推移すると思われま

す。柑橘類では鹿児島産の貯蔵紅甘夏の入荷、ハウスみかんは愛知産主力の入荷となります。九州産については下旬からの入荷となるようです。

桜桃は山形産佐藤錦主力の入荷となり、昨年より5日前後早い出荷となっています。

ハウス物のデラウエアは、下旬より奈良産と大阪産の入荷を見込んでいます。岡山産のマスカット・オブ・アレキサンドリアは下旬から入荷が始まります。

輸入果実のバナナではフィリピン、南米産とも安定した入荷傾向です。オレンジはネーブル種が中玉サイズ、バレンシア種は小玉サイズとなりますが、どちらも安定した入荷が見込まれます。イスラエル産グレープ、ルビー、ホワイトともに大玉傾向の入荷。カリフォルニア産レモンは小玉中心でコンテナ不足から不安定な入荷となる見込みです。パイナップルはゴールデン・スウィーティオ種の入荷が見込まれます。キウイフルーツはニュージーランド産がスタートし、ゴールド・グリーン共に中玉を中心に比較的安定した入荷が予想されます。カリフォルニア産チェリーは上中旬においては早生種、中旬以降はビング種の入荷となり、現時点では順調な入荷が予想されます。その他、メキシコ産ハネジューメロン、タイ・メキシコ産マンゴー、チリ産レッドグローブの販売に加えて、オーストラリア産のシードレスブドウなど変化のある商材が提供できるシーズンとなります。

《果実部部長 荒木 智》